

基礎構造の設計に関わる新技術評価に関する研究委員会 第5回全体委員会 議事録

1. 日時 : 2005年8月29日(月) 14:00 ~ 17:30
2. 場所 : 地盤工学会 3F会議室
3. 出席者 : 木村、井上、大島、大川、大谷、菊池、小松、張、富澤、堀越、三浦、山下、深田(敬称略)
4. 欠席者 : 大塚、後藤、白戸、田蔵、龍田、福井(敬称略)
5. 議事 :

(1) 第4回委員会議事録の確認

深田幹事より前回議事録の説明があり、議事録は承認された。

(2) 各WGの内容説明

各WGの活動内容(14:00~14:45に実施)の報告があった。

- ・WG1(性能評価の体系化に関するWG): 井上委員(代菊池主査)

堀越委員より土木学会「土構造の性能評価に関する委員会」の活動紹介があった。性能設計のキーワードとしてリスクの評価・分担の問題がある、設計法の承認システムについては国内では性能保証の問題(責任?)があるとのことである。海外の状況についても調査する予定である。国内での要素技術の普及事例(HA[®]-ウエル等)については次回に紹介することになった。技術認証制度が普及に果たす役割については評価が分かれるようだ。

- ・WG2(新しい基礎形式に関するWG): 大谷主査

前回に続き、ASCE主催のGeo Frontierでの杭関係の文献抄録が各委員より提出された。国際地盤工学会議等での情報収集を継続する方向となった。最終的には日本の基礎技術を海外に紹介できるような企画を考えたい、とのこと。「土と基礎」特集号(杭基礎の変化変遷)については当委員会として投稿できるか確認するとのことである。

(3) 新しい基礎の話題提供

- ・山下委員 : 「建築基礎におけるパイルドラフト基礎の取り組み」

パイルドラフトは直接基礎と杭の相互作用の問題であり、基礎の選択肢が広がる、沈下量の制御により性能設計が活用できる、杭基礎の合理化ができるなどのメリットがある。開発の歴史や実績(2001年に建築基礎構造指針に取り入れられた)、江東区での実験構造物での実測と検証結果および最近の超高層での事例などが紹介された。性能設計を成立かつ機能させるための要素として基準指標・説明責任・経費効率化・顧客満足度があるとのことである。

沈下量、杭の荷重分担率、杭長や杭間隔の決定要因などについて質疑応答があった。

- ・神田政幸氏(鉄道総合技術研究所)

: 「鉄道総研における技術開発、矢板を用いた構造物に関する話題提供」

鉄道総研における最近の技術開発事例として、シートパイル基礎、耐震性橋台(ソイルセメント補強橋台)、BCH工法、杭頭接合構造の紹介があった。また鉄道の技術認証(新技術は、鉄道総研での評価を経て委員会の審議により鉄道技術基準に導入される)の説明があった。

杭頭接合構造の施工性やシートパイル基礎の継ぎ手に関する質疑があった。鉄道構造物への民間技術の導入に対する基本的なスタンスやコンセプトについて活発に質疑がなされた。導入の指標として、その技術が一般工法であるか、導入してメリットがあるかなどの視点がある、民間との共同開発はスピードが求められている、等のコメントがあった。

(4) その他 :

- ・成果の発表形態として全国大会のディスカッションセッションに発表するかどうかの討議があった。全国大会では発表が輻輳するため、「ディスカッションセッションに発表しない」ことになった。

- ・神田氏に委員に入ってもらった。(WG1に所属)

次回の委員会は調整後H17年12月8日(木)13:00~17:00の予定である。 - 以上 -